

公共図書館 展示

テーマ展示：  
「レファレンスってなあに」

今年度の公共図書館部会のテーマ展示は、「レファレンスってなあに」と題し、図書館の大切な仕事のひとつである「レファレンス」についての展示を行いました。

図書館は「本を借りる」「学習する」以外にも日々の疑問を解決できる場所であることを伝え、もっと気軽に図書館（「レファレンス」）を利用していただきたいという思いから企画しました。

◆運営・準備

「図書館と県民のつどい」実行委員（以下、実行委員）が準備・運営にあたりましたが、今年度は展示のテーマが「レファレンスってなあに」であったため、埼玉県図書館協会参考調査専門委員会の専門委員にもご協力いただきました。

県内の公共図書館に①パスファインダー（調べ方案内）や、②展示会場での配布物の提供を呼びかけるなど、準備を行いました。



◆展示

展示については、レファレンスを知ってもらうために「レファレンス」の概要と流れをまとめて展示しました。また実際にどのような質問が寄せられているのかを来場者に見ていただきたいと思い、レファレンスの質問や

回答の事例作成を専門委員に依頼し、来場者の興味を引くと思われる事例を用意しました。展示会場には、事例と共に回答に使用した資料も展示しました。

その結果、展示した質問・回答を読んだり、回答に使用した資料を手にとってご覧になったりと来場者の方々に興味を持っていただきました。



◆体験ブース

体験ブースについては、実行委員が4つのレファレンス体験台本を用意しました。来場者が手に取りやすいよう質問を机に並べ、回答に使用する資料を近くに用意しました。

4つの質問から1つを選び、質問者・図書館員のどちらかを体験するかを決めたら体験スタートです。体験者が1人の場合は、スタッフが質問者または図書館員となって対応し、体験者が2人の場合は、体験者にそれぞれの役になっていただき、スタッフが補助に入りました。

体験に参加していただいた方には手づくりのメモ帳をプレゼントしました。

◆おわりに

スタッフ間の連絡・確認が十分にできなかったこと、展示の文字の色や大きさが適切だったか、来場者呼び込み用の標示やパネルの作成が足りなかった等、今回の反省点を今後生かしていきたいと思えます。

お忙しい中、ご協力いただきました県内公共図書館の皆様、ありがとうございました。

（記録：上里町立図書館 栗原 朋子）

## 朝井リョウ氏著作展示

朝井リョウ氏の講演タイトルが『朝井リョウの図書館ラジオ』ということもあり、著作展示ではラジオブースを模した展示を行いました。展示を見に来てくださった朝井氏からお褒めの言葉をいただき、自らブースに座った写真も撮っていただきました。



今回、朝井リョウ氏の著作を展示するにあたり、県立図書館、県内市町村立図書館、県立高校図書館に依頼して、利用者・職員を対象とした著作の人気投票を事前に行いました。投票の結果、第1位『桐島、部活やめるってよ』、第2位『何者』、第3位『チア男子!!』と、朝井氏の人気小説が上位を占めました。続く、第4位は『学生時代にやらなくてもいい20のこと』、第5位は『風と共にゆとりぬ』とエッセイ2作品がランクインする結果となりました。



投票と同時に本の感想やメッセージを募集しました。作品ごとにいただいた感想はすべて展示し、一部の感想はPOPにして、朝井

氏の著作と並べて展示しました。また、一作品ごとに感想をまとめたポスターを作成し、パネル展示も行いました。



ランキングの投票対象は単行本として出版された小説及びエッセイとしましたが、それ以外の著作も幅広く紹介したいと思い、アンソロジーに収録された短編などの単行本未収録作品、新聞記事なども展示しました。ご来場いただいた方からは「こんなに多くの作品があるのを知らなかった」というお言葉を多数いただき、お手に取ってご覧になっている方も多くいらっしゃいました。



公共図書館全体で協力して、多くの著作を集めることができた甲斐もあり、ご覧になった朝井リョウ氏も喜んでくださいました。

反省点は多々ありますが、実行委員全員で協力し、公共図書館・高校図書館の力を合わせて展示を作りあげられたことを大変嬉しく思います。

お忙しい中ご協力いただきました県内公共図書館の皆様、県立高校司書の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

(記録：埼玉県立熊谷図書館 須貝 俊)

## ブックケア = 未来へつながる保存の技術 =

おかげさまで 8 年目を迎えたブックケア。今年も様々な世代の方に、本の治し方や長く大切にするための資料保存の技術を伝える展示をご覧いただき、また綴じ体験ワークショップにご参加いただきました。

展示では、修理の基本知識や技術、材料・道具についての解説パネルと道具類を展示する保存の技術のコーナーと、様々な破損パターンの修理の過程を知る「本の修理ビフォー・アフター」のコーナーを設けました。加えて、2018 年 9～10 月に熊谷・久喜両県立図書館で行った巡回企画展示「保存 100 年後、この本はダレと出逢うのだろう。」からの出張展示として、埼玉県立図書館で行っている資料保存・媒体変換の取組をパネルで、製本について資料でご紹介しました。

ブックケアをきっかけに、図書館の保存活動にも興味をもっていただければ幸いです。



### 【パネル展示】

#### <保存の技術（材料・道具）>

##### ●修理の基本と材料

##### ①修理の基本

- ・何度でもやり直せること
- ・安全な材料を使う
- ・柔らかく軽く仕上げる

##### ②基本的な材料

和紙（楮）（極薄・薄・中厚・厚 4 種類），でんぷん糊，混合糊（でんぷん糊 2：白ボンド 1），白ボンド，麻糸

##### ●本の修理の道具

筆（こしのある平筆），カッターナイフ，定規（金型 30cm），目打ち，製本針，締め板，重し（5kg、漬物石等），樫矢（目打叩き棒）

#### <本の修理ビフォー・アフター>

代表的な壊れの事例 4 例について、どんな流れで修理するのか過程をパネルで紹介。修理後の現物も並べ、前後で見比べていただくコーナーです。

事例 1 和紙と糊でやぶれを治す

事例 2 和紙の足をつけてページをもどす

事例 3 自立しない本ののどのゆるみを治す

事例 4 絵本をリンク・ステッチで綴じ治す

#### <未来へつながる資料保存 - 県立図書館の資料を守る取り組み - >

##### ●未来へつながる資料保存

- ・壊れる前の予防対策
- ・保存容器を用いた劣化抑制
- ・フィルムやデジタルへの媒体変換
- ・資料を保管する場所の環境管理

##### ●本を知ろう 製本

製本や印刷についての資料を展示しました。

#### 【配布】

#### <治す技術（修理の基本的技術）>

●『本の修理きほんのき』その 1・10・プラス 1 本を長く利用するために気をつけたいこと、道具や材料、基本的な修理方法を、コツやヒントをまじえてご紹介するチラシを配布しました。

※『きほんのき』はウェブサイトに掲載していますので、ぜひご覧ください。

<https://www.lib.pref.saitama.jp/guide/hozon/gizyutu.html>

#### 【体験コーナー<カンタン綴じ体験>】

##### ●糊綴じ

（粘葉装）

##### ●平綴じ

（四つ目綴じ）

##### ●リンク・ステッチ



（記録：埼玉県立熊谷図書館 高木 萌）

## 障害者用資料展示と体験会

障害者サービス用資料は、視覚障害者だけではなく、発達障害や知的障害など、活字による読書に障害がある方にご利用いただける資料です。この「図書館と県民のつどい」で多くの県民に資料を知っていただき、このような資料を必要としている方へ読書の楽しみを届けられたらとの思いで、昨年度に引き続き2度目の参加をさせていただきました。

### ◆障害者サービス用資料について

耳で聞いて読書を楽しめる「音声デイジー」のほか、「マルチメディアデイジー」、「LLブック」、「ユニバーサル絵本」などがあります。下記に各資料の特徴を紹介します。

#### (1) 音声デイジー

デイジーはデジタル録音図書の国際標準規格です。読みたい見出しやページへのジャンプ、再生スピードの変更等の機能があります。今回の展示では、記念講演の講師をされた朝井リョウ氏の著作を用意しました。

#### (2) マルチメディアデイジー



音声と文字と画像がシンクロ（同期）して再生するデジタル図書です。音声で読まれている部分の文字がハイライトされるので、今どの場所を読んでいるか一目で分かります。また文字の大きさや背景色、再生スピードも変更でき、中でもディスレクシア（読み書き障害）の方の読書に有効だといわれています。会場では、学校で使われる教科書のマルチメディアデイジー版サンプルや、埼玉県立久喜

図書館で昨年度製作した絵本などをノートパソコンとタブレットで体験いただきました。

#### (3) LLブック

LLとはスウェーデン語の Lättläst（わかりやすく読みやすい）を略した語です。文章をわかりやすく書き直したり、ピクトグラムを使ったりして、知的障害などがあっても生活年齢にあった情報を手に入れることができます。



#### (4) ユニバーサル絵本

凹凸のある絵と点字が印刷され、触って楽しむことができる絵本です。障害の有無に関わらず、誰もが楽しむことができます。

#### (5) その他展示資料

ひもやファスナー、ボタンなどで絵を動かしたりはずしたりできる「布の絵本」、両隣の行を隠して読みたい行に集中できる「リーディングトラック」を展示しました。

### ◆展示を終えて

観覧頂いた方からは、「初めてこれらの資料に触れられた」、「子どもと読書をつなぐ活動の中で、確かに読めない子どもの存在を感じていた。ぜひ伝えていきたい」といった声をお聞きできました。必要な方に情報を届けるにはさらなる広報が必要です。今後も様々な機会をいただき、活字による読書に障害がある方に読書の楽しみを伝えていきたいと思っております。

（記録：埼玉県立久喜図書館 大島 恵津子）